

学校法人内丸学園
盛岡幼稚園

園報

第 281 号
(9 月)
2026

タッピング先生のピアノ教訓

学校法人内丸学園

理事長 坂本 洋

この度当園では、盛岡市保育所協議会の事業である保育公開が、本年度の実施園として7月16日に関係多数の方々の参加を頂き開催いたしました。開会のご挨拶の中で当園の教育保育の中心理念として創立者ミセス・ジュネビブ・タッピング先生の使用ピアノの存在、そしていまだに修復調律して利用可能であり本園の教育理念の象徴であることを紹介し興味関心を頂きました。

この機会に改めてタッピング先生の幼稚園創立で用意されたピアノから教わるもの、これからも継承しなければならない想いを記したいと思います。

当園の創立者ミセス・ジュネビブ・タッピング先生が、盛岡で幼児

教育施設として岩手県で最初の幼稚園認可を得て私立盛岡幼稚園を開設されてから、現在まで営々と継承運営しておりますが、来年令和9年には創立120周年を迎えようとしております。その詳細な設立経緯は、創立60周年、90周年の両記念誌に記載されておりますが、明治40年に米国からキリスト教宣教師として、ご一家(タッピングご夫妻・長女ヘレン、長男ウイラード)が盛岡の地に移住され活動したことが発端です。

ミセス・ジュネビブ・タッピング先生は、米国ウイスコンシン州に

生まれ、ローレンス・カレッジ卒業後にイリノイ州シカゴのクック師範学校で幼稚園教育を学び、その後ドイツのドレスデンの音楽学校に留学し主としてピアノ修学をして帰国。その後ヘンリー・タッピング先生と結婚し、ご兩人モーガンパーク神学校(シカゴ大学神学部)で資格習得しキリスト教宣教師活動のご経歴のようです。

ミセス・タッピングは盛岡に移住される前の活動として、東京にて来日在住の米国婦人たちの要請で、わが国初の幼児教育母養成学校を創立し、翌年に築地と四ツ谷に幼稚園を開設される中心的活動の実績が報告されております。

(灯火をかかげて・大島良雄氏著書、タッピング夫人の幼稚園事業)

私立盛岡幼稚園の誕生記録は、明治40年(1907年)盛岡に移住されたミセス・タッピング先生が、任意の盛岡保育会を引き継いだことによります。この会は当時の盛岡高等女学校(現在の岩手県立盛岡第二高校)勤務の長岡栄子

が中心となつて課外活動として、午後に週三回ほど学校施設内で付近の幼児対象に保育活動を行っておりましたが、余りにも人気応募が多くなり公立学校施設利用が困難になり、ミセス・タッピング先生に要請があり宣教師役宅を開放し幼児教育幼稚園として開設しようです。(90年誌P120、幼稚園開設文及び園規則資料)



「園の宝物」タッピングのピアノ」



タッピング先生のピアノ教訓(2)

開設時からのミセス・タッピング先生の幼児教育理念は、一人ひとりの個性を人格として尊重し型にはめないかわり、更に主体的な子ども自身の遊びが学びとなる環境を大切に、そして幼児期からホンモノ本物に触れる機会を与えることが、幼児の感性を育む基本であるがモットーでした。

更に幼児教育はご家庭との協働が大事であるとの信念で、特に母親の意識改革のため保護者に働きかけ「母の会」を組織してご自身が講演等行っておりました。その理念は現在の保育指導に引き継ぎ生かされております。

さて当時の盛岡には音感教育のピアノ楽器は、未だ無かった時に米国から幼児教育のためにわざわざピアノを取り寄せ使用した英断には、幼児教育への本気度がうかがい知れます。

その当時の幼児園のピアノは、大変珍しく各方面から使用要請があ

り貸出規定まで作られ、公会堂や盛岡劇場等での演奏会に活用された様子が前頁の記念誌に掲載されております。(90年誌P 32、33、岩手県ピアノ研究会会報、新藤武先生)

また当時は宮沢賢治さん(郷土の有名詩人)とも親交があったようで、ご一家の様子が「岩手公園」と題名されて詩作発表されております。

明治40年代に幼児教育のために米国から取り寄せられたピアノ楽器はどんな素性であるか。平成9年に創立90周年を迎えた時に、当時既に使用されずに部屋の隅に置かれた古いピアノでしたが、ミセス・タッピング先生の幼児教育にかける理念の象徴として修復し使用可能とする事業として行うことにいたしました。

その経緯の一端として、ピアノミュージックマガジン、「ショパン」1988年7月号に宇都宮誠一氏(日本ピアノ調律師協会元会長)の掲載記事、盛岡に百年前の「森の音色」がよみがえった、タッピング先生のピ

アノと題された記事が紹介され注目されました。

著者の調査によりまずと米国ニューヨーク、ジュームスターンで1875年創業のオールストロム社製造。初めは家具など木工製品製造でしたが、ピアノ製造を開始し少数ではあるが良質のピアノ生産の実績。タッピング先生の求めたものは、

美麗な木彫付きマホガニー仕立ての88鍵。大型アップライトの最高機種とのことでした。

90周年記念事業としてのピアノ修復は、小職が事業実行の責務を負いましたが、修復の条件として①出来るだけ古いピアノの姿を残す。②ピアノとしての機能が保たれる最小限の修復。③幼稚園創立当時の精神的シンボルとなるものとする。

ヤマハ浜松工場に運ばれ、本体を分解し基本的強

岩手公園

「あなた」と老いしタッピングは杖をはるかにゆびさせど東はるかに散乱のさびしき銀は聲もなし

「去年が姉はこゝにして中學生の一組に花のこばを数へしか」

孤光燈にめくるめき羽虫の群れのあつまりつ川と銀行木のみどり

まちはしづかにたそがるゝ

宮沢賢治



盛岡市保育所協議会 公開保育を終えて

7月16日(木)に行われた「盛岡市保育所協議会公開保育」では、「夢中になれる遊びの環境」と援助をテーマに、市内の保育園、認定こども園等から44名の参加者があり、本園の日々の様子、子ども達の姿を見ていただきました。

本来であれば、日々の遊びの中で夢中になり、楽しんでいた虫探し、色水遊び等、園庭でのびのびと遊ぶ子ども達の姿を公開予定でしたが、好天に恵まれ過ぎ、当日朝に、今年初の熱中症警戒アラートが発令され、急遽、雨天バージョン(室内)での公開に変更となりました。

毎日様々な発想で遊びを楽しんでいる子ども達ですが、この日は、7月4日(土)に行われたAクラスのお楽しみ会の中での職員企画「お祭り」の経験から遊びが広がり、ホールを暗くし、大型積み木を並べ、お化け屋敷ごっこや、クラス



参加者からの感想

・3〜5歳児が一緒になり、同じ遊びを楽しんでいる空間に、異年齢ならではの関わり(優しさ、教え合い等)がよく見られた。保育室とホールを自由に行き来でき、〃今やりたい遊び〃や子ども達の主体性につながっていると感じた。

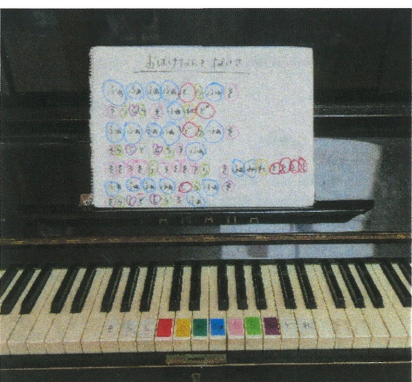
多くの学びから

公開保育の参加者から、感想や子ども達の学びや育ちを感じた場面等、たくさんのご意見を頂きました。その中で、何気ない自然な遊びと考えていた「本物のピアノ」を子ども達が自由に遊びで使用する姿に参加者からは驚きとステキな環境という感想が多く寄せられました。タッピング先生の「幼児期から本物に触れる機会を与える」という幼児教育理念が引き継がれ、子ど

も達にとっても良い経験になっていると実感することができました。

また、公開保育後の遊びでは、お祭りごっこから、さんさ踊り、お店屋さんごっこと遊びが展開されていますが、手作りのさんさ太鼓が出されたり、お店屋さんの品物を作ったりと、その時に必要な物を子ども達と一緒に考え、作り、遊びを楽しむ姿は日々続いています。

これからも、子ども達の「やりたい」気持ち大切に、子ども達と一緒に試行錯誤しながら過ごしていきたいと思ひます。(文責：舟越 恵子)



「子ども達が実際に使っているピアノ」

初めてがいっぱいの運動会

幼稚園部になって、初めての運動会。最初は「？」だった子もいましたが、練習を重ねるうちに、かけっこやダンスを楽しむようになりました。A・Bクラスの競技を見ることも刺激となり「もう一度ダンスをやりたい!」と期待が膨らんでいました。かけっこでは遊びの時間にも楽しみ、ダンスでは大好きな動物をイメージした曲に合わせて元気に踊っていました。当日は、いつもと違う場所や雰囲気緊張して涙が出た子もいましたが、一人一人が自分なりに頑張る姿がありました。今は、動物の耳やしっぽを付けて遊んだり、Aクラスのバルーンを真似て音楽に合わせて踊ったりしています。今回の経験が来年以降につながるように運動

会ごっこを楽しみたいと思います。

Cクラス

キラキラ金メダル!

1学期から、Aクラスで楽しみなこと・頑張りたいこととしてリレーやバルーンを挙げることが多く、運動会でのAクラスの姿は憧れだったようです。いよいよ自分達の番。張り切って練習する中で、綱引きやリレーで負けると涙が出ることもありましたが、でも、泣いてばかりはいられません。次に向けてチームで作戦会議を開くと、いい考えがたくさん出てきました。話し合ううちに涙も止まり、次は頑張ろう!と前向きになっていました。協力して一つの目標に向かい、諦めずに取り組む姿に成長を感じました。運動会を終え、金メダルをかけたみんなは、やりきった良い表情でした。

Aクラス

運動会の



毎日が運動会♪

「運動会」をまだ理解していなくても、体操曲が流れると「うんどうかい、はじまった!」と集まり、終わると踊っても踊らなくても「いえーい!」と大喜び。何度も聞く言葉や曲、そして経験が少しずつ繋がって運動会が子ども達の楽しみになっていました。他クラスの様子をみて応援の真似っこが始まったり、給食で野菜を見つけては「(親子ダンス曲の)おやさいサンバだ!」と話したりと、運動会で頭がいっぱいな毎日でした。ダンス見本動画を毎晩観て楽しんでいた子もいたようです。真似っこ大好きな子ども達にとって、運動会後もまだ楽しさが続いています。

保育部

取り組みから...

大きな力に

練習が始まったばかりのときは、とても張り切っていたり難しそう...と不安そうにしたりなど、それぞれの姿がありました。しかし、練習が進み新しいことを知って「頑張るぞ!」と自信がどんどんついていった子ども達。笑顔で競技練習をする中でも、「勝ちたかった」と悔しさを滲ませる場面も多く出てきました。

取り組みの中で、悔しさや全員で息を合わせて動く楽しさなど様々な気持ちや動きを経験し、Bクラスの一人一人が、また一段と成長したように感じます。

運動会までの取り組みや本番の経験が子ども達にとってまた一つ大きな力になればと思っています。

Bクラス

『幼稚園も?!』

ある日、登園してきたAくんがお部屋に行こうと階段を上っていると...

「幼稚園ってどこに住んでるの?」

よく聞いてみると、

「幼稚園(の建物)もじーじとばーばみたいに遠くにお家あるのかなあ。そこからいつも来てるのかなあ」

『幼稚園』も毎日登園している、と想像を膨らませていたAくんでした😊



子どものつぶやき
日常のエピソード

学校法人 内丸学園
幼保連携型認定こども園

盛岡幼稚園

盛岡市中央通一六四七

TEL 六三二一三〇一

理事長 坂本 洋